

燃費向上と事故削減へ実証実験開始

自動車アフターマーケット高度化コンソーシアム(代表幹事＝早稲田環境研究所・早稲田大 学環境総合研究センター)による燃費向上と事故削減に向けた



保有する200台のうち路線バス40台で実証実験中

自動車アフターマーケット高度化コンソーシアム



路線バスにドライブレコーダーを装着するのは全国的に例が少ない

取り組みが本格的にスタートし、同コンソーシアム会員企業が「当社が単独で取り組むよりも、同コンソーシアム会員企業が」が燃費管理システムとドライブレコーダーの情報を実証実験を

燃費管理システムとドライブレコーダー装着

通じて分析、故と省燃費と同時に、二酸化炭素(CO₂)削減に取り組むことを目的とし、実証実験開始から約3カ月が経過し、普及に実績が高まっている。

秋田県北部でバス事業などを展開する秋田県北部バス(代表幹事＝秋田県北部バス事業)は、上位・中位のドライブレコーダーを装着したバスを運行。急加速や急ブレーキなどの運転状態を年内にかけて解析し現状を把握して、運転士の講習会で指導を行うとともに改善効果をデータ化する。

これからの情報を、富士火災海上保険と早稲田環境研究所が燃費と事故の相関関係を分析、未然に事故を防ぐための注意喚起につなげる。

秋北バスでは、保有するバス約200台のうち路線バス40台にドライブレコーダーを装着して運行している。現在では、ドライブレコーダーによる運転データを運転士自ら「振り返り」を行っている。運転士の一人は「意識的にスムーズな運転を心がけるようになった」と語るように、安全運行と省燃費運転について理解を深めている。

ドライブレコーダーのデータを日本ユニシスと共同で分析する早稲田環境研究所の佐藤雄副主任研究員は「運行路線が山岳路が市街地かの違いなどの状況

秋北バスが第1号モデル

スムーズな運転意識など成果出る

にもよるが、急加速などの回数は実験当初と比べて減っている」と説明する。毎日、自社のバスで通勤する太田社長も「アクセルの踏み方を見ても、非常に意識が変わってきた」として効果が表れている。省燃費効果としては、単月で対前年比で燃費が4・8%向上し、経費削減にも貢献している。

実証実験は、来年6月にかけて行われ、今後はドライブレコーダーに対する講習会が開始される。公共交通機関が発達していない地方都市は、生活の足としてバスが果たす役割は大きい。秋北バスでは、省燃費と無事故運転による経費削減を通じて、バス路線の維持と新規運行路線の開設に結び付けていく。同コンソーシアムでは、今回の実証実験を通じてバス事業者や社有車を多く保有する企業の安全運行モデルとして構築し、導入企業数の拡大を目指す。